

総括研究報告書

1. 研究開発課題名：統合継続ケアの推進：保健関連ポスト国連ミレニアム開発目標における疾病対策戦略
2. 研究開発代表者：神馬征峰（東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室）
3. 研究開発の成果

本研究は2015年から2030年にわたるSGD実現のための保健関連目標達成戦略として人間中心の「継続ケア」に注目する。従来の母子保健サービスに、三大感染症（HIV感染症、マラリア、結核）、非感染性疾患（NCDs）対策を取り込んだ統合継続ケアモデルの確立を目指すものである。

本年度は政策研究として、系統的レビューと政策研究論文の草稿を作成した。系統的レビューとして、「母子保健、三大感染症、NCDsの一部を統合させた継続ケアの効果や促進要因・阻害要因に関する系統的レビュー」及び「母子保健分野における出産以前

（Adolescence/Pre-pregnancy）から妊娠期におけるケアの継続が妊産婦死亡、周産期死亡及び新生児死亡に及ぼした影響を調査するための系統的レビュー」を実施した。また、政策研究論文として、アジア各国におけるDemographic and Health Surveyデータセットを用いた継続ケアの多国間分析を実施している。母子継続ケア（産前ケア、出産介助、産後ケア）を一貫して保健従事者による検診または介助のもとで実施した母子について、その促進・阻害要因及び格差の分析を試みている。また、母子保健分野におけるサービス提供内容、特に三大感染症、NCDsに関連する項目を抽出し、ある母子が一貫してこれらのサービス提供を受けているかどうか推計し、その促進・阻害要因及び格差の分析を試みている。

一方、フィールド研究として、本年度はミャンマーとガーナにおける継続ケアに関するデータを収集した。ガーナにおいては、過去に継続ケアに関する介入を受けた女性を対象に、それ以前の妊娠において受療した保健サービスも含めた長期の受診行動に関するデータを収集した。また、ミャンマーでは、都市部と地方において、母子保健ケアサービスの中で受けている感染症及びNCDsの予防・治療ケアの状況に関するデータ収集を行った。これらのデータは入力及びクリーニングを終え、次年度に分析するための準備を行った。